ホンダ こまめ F210

取扱説明書

ご使用になる前に、必ず
この取扱説明書をお読み
ください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書のイラストはK1タイプを中心に説明しています。
保証書はよくお読みいただき裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ……4
安全ラベル ……11

サービスと保証について……13

各部の名称と取扱いをおぼえましょう……14
エンジン スイッチ ……16
エンジン回転調整レバー ……16
主クラッチ レバー、クラッチ固定レバー ……17
始動グリップ ……18
チョーク ノブ ……18
燃料コック レバー、ドレンつまみ ……19
ハンドル固定レバー ……19
ハンドル高さ調整 ……20
ヒッチ ボックス(作業機取付け部)、ドラッグ バー(抵抗棒) ……21

作業前に点検、調整しましょう……22
作業前の点検 ……22
ガソリンの点検 ……23
エンジン オイルの点検 ……25
エア クリーナ(空気清浄器)の点検 ……26
変速機オイルの点検 ……27
ハンドル角度調整 ……28
ハンドル高さ調整 ……29

エンジンのかけかた……30
リコイル スタータを使用する場合 ……30
セルフ スタータを使用する場合(KSタイプ)……35

運転操作のしかた……39
主クラッチ レバー ……39
クラッチ固定レバー ……40
エンジン回転調整レバー ……41

エンジンのとめかた……42

定期手入れを行いましょう……44

やさしい点検・整備……45
エンジン オイルの交換 ……45
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃 ……48
点火プラグの清掃・調整 ……49
エンジン回転調整ケーブルの調整 ……50
主クラッチ ケーブルの調整 ……51
燃料フィルタの清掃 ……52
バッテリの補充電(KSタイプ)……54

長期間使用しないときの手入れ……55

故障のときは……56

主要諸元……57

同梱部品の組付け方……58

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

警告

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン　スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故がおきやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、路面の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意して行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、廻りに注意して行ってください。

警告

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定してください。
- ロータリの爪(タイン)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取り除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。

警告

- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

警告

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ　カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引きおこすおそれがあります。

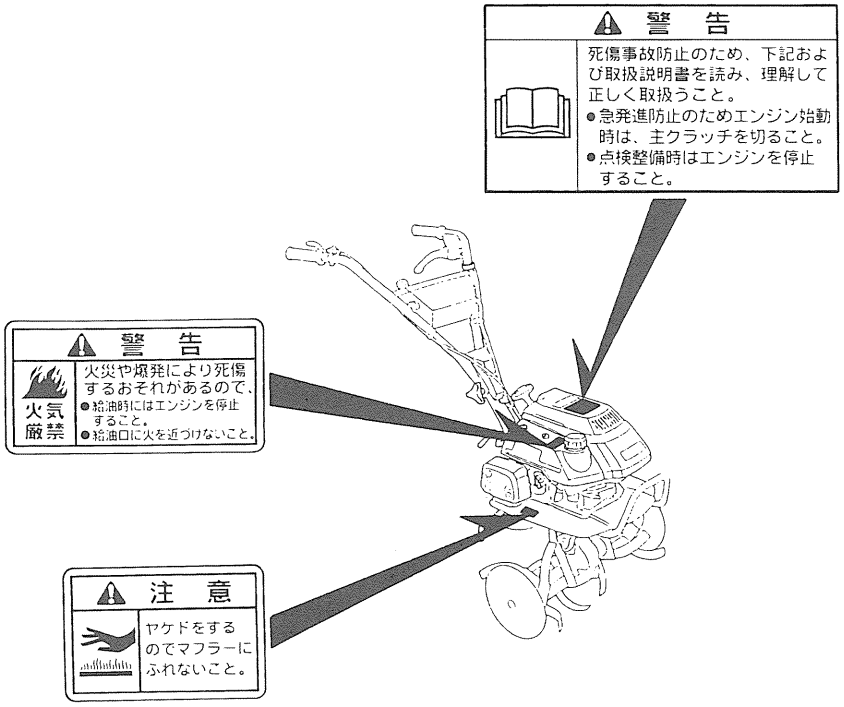
警告

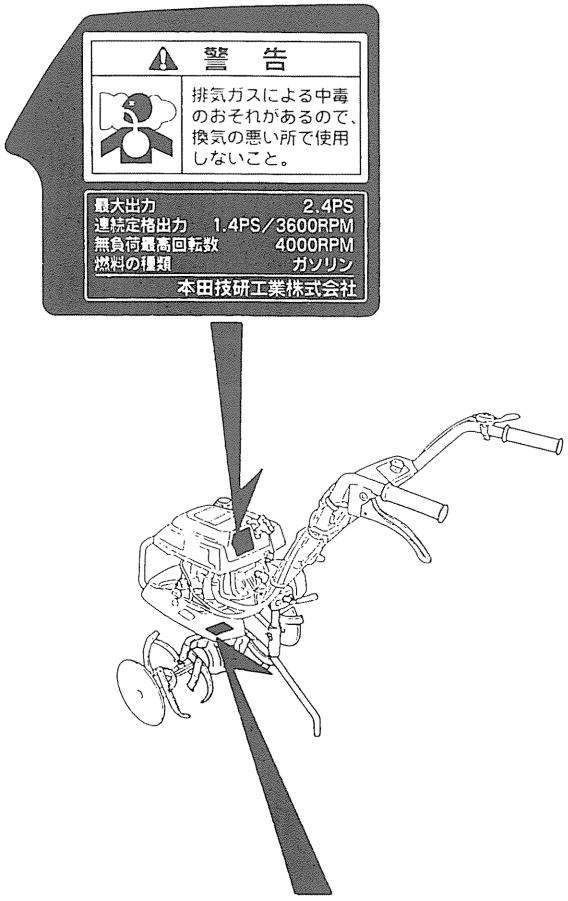
●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かない様にしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・運搬時本機の燃料タンクおよびキャブレータの燃料を抜いてください。
  - ・必ず２人以上で持って、車の荷台に載せてください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

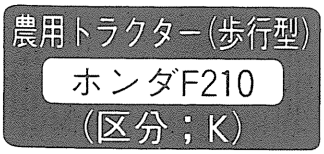



警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
最大出力 2.4PS
連続定格出力 1.4PS／3600RPM
無負荷最高回転数 4000RPM
燃料の種類 ガソリン
本田技研工業株式会社
危　険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申し付けください。また、ご相談窓口として「ホンダ汎用営業所・S店住所一覧」を別紙で同梱しておりますのでご利用ください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘柄の表示位置は
14頁をご覧ください。
（参考：左の銘板はF210-K1タイプの物です）

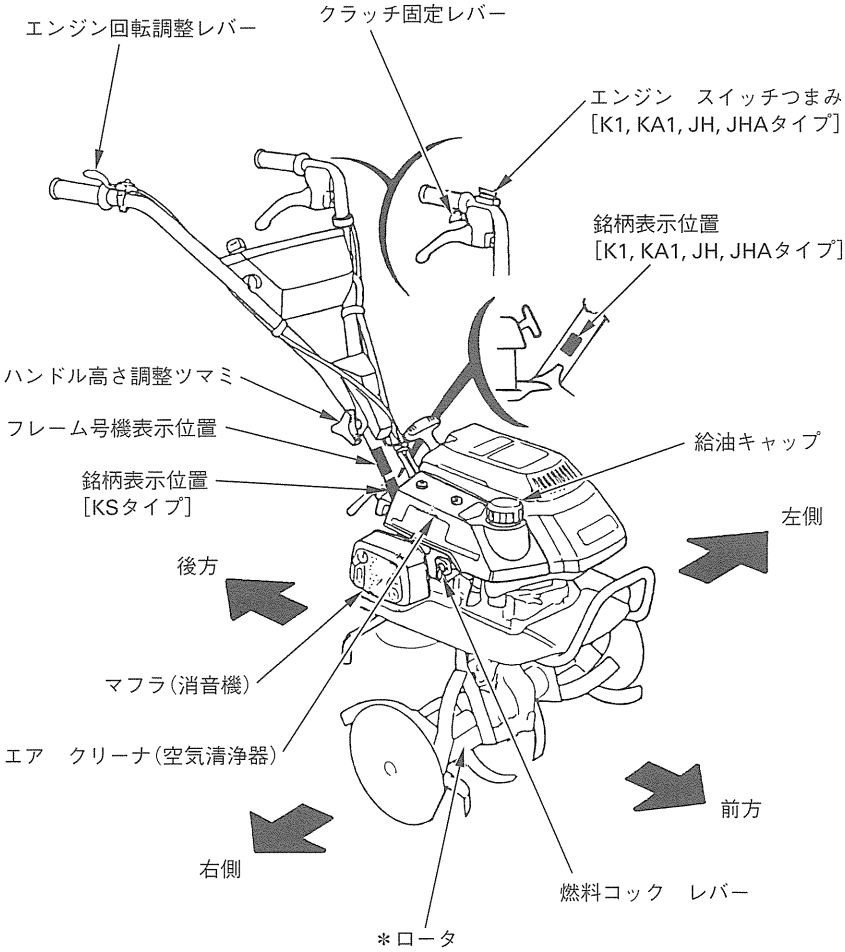
本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

認定番号

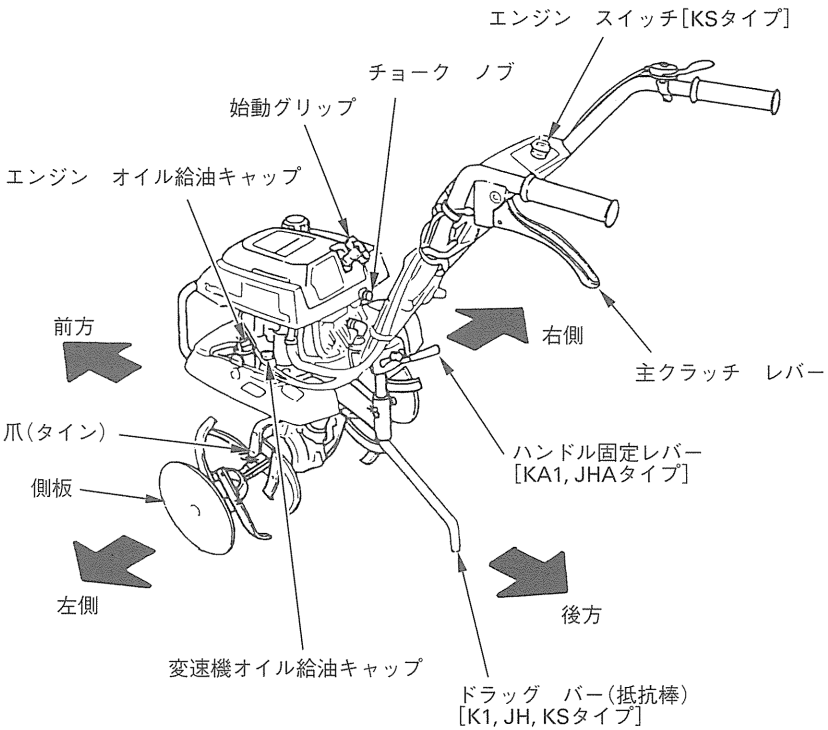
安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダF210	802047

各部の名称と取扱いをおぼえましょう



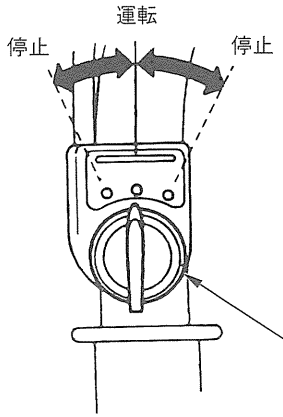
＊KA1, JHAタイプにはロータは設定されていません。


エンジン　スイッチ[KSタイプ]
チョーク　ノブ
始動グリップ
エンジン　オイル給油キャップ
前方
右側
主クラッチ　レバー
爪(タイン)
側板
ハンドル固定レバー
[KA1, JHAタイプ]
左側
後方
変速機オイル給油キャップ
ドラッグ　バー(抵抗棒)
[K1, JH, KSタイプ]

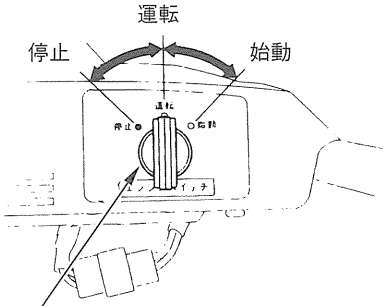
エンジン　スイッチ

エンジン　スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。

［K1, KA1, JH, JHAタイプ］



［KSタイプ］

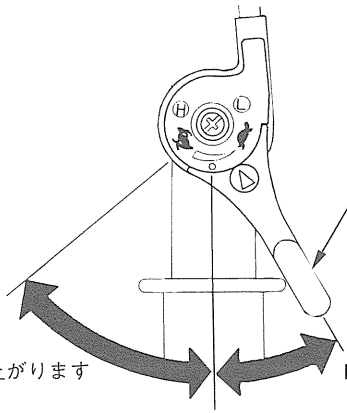


エンジン　スイッチ

エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



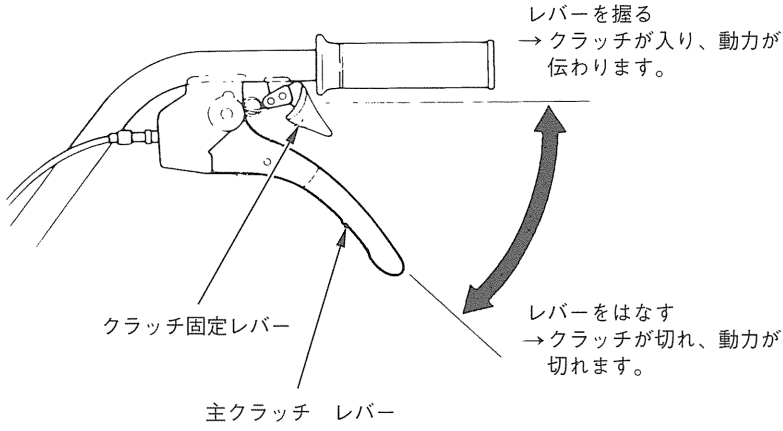
H…エンジン回転が上がります

L…エンジン回転が下がります

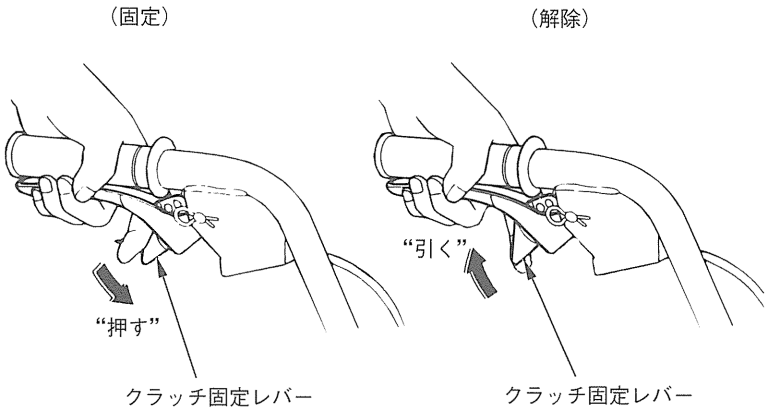
始動…エンジンを始動するときの位置です

主クラッチ　レバー、クラッチ固定レバー

主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。

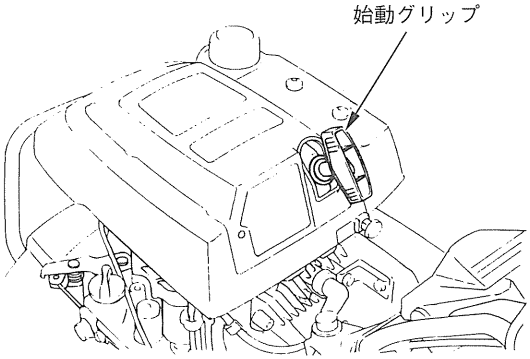


- 主クラッチ　レバーを握ってクラッチ固定レバーを指で押すと主クラッチ　レバーは固定されます。
- 解除するときは、クラッチ固定レバーを手前に引き、主クラッチ　レバーをはなします。



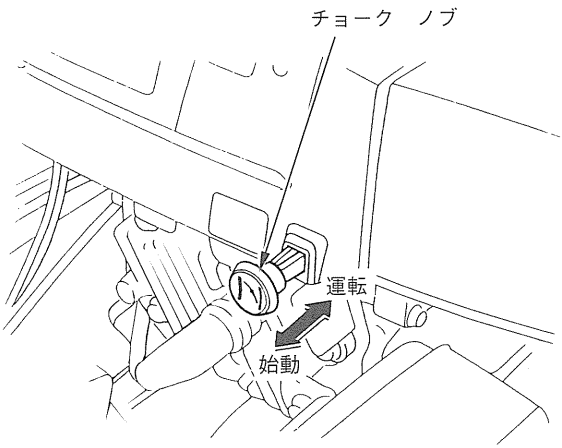
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



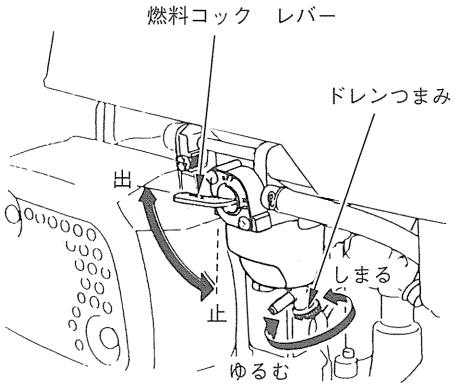
チョーク　レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



燃料コック　レバー、ドレンつまみ

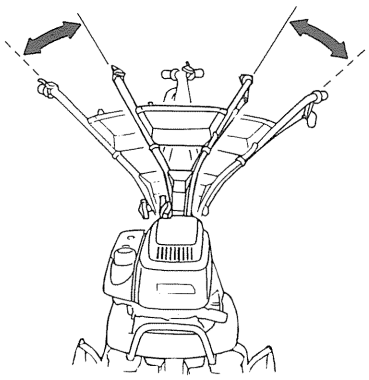
燃料コック　レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。
ドレンつまみは燃料を抜くときに操作します。



ハンドル固定レバー［KA1, JHAタイプ］

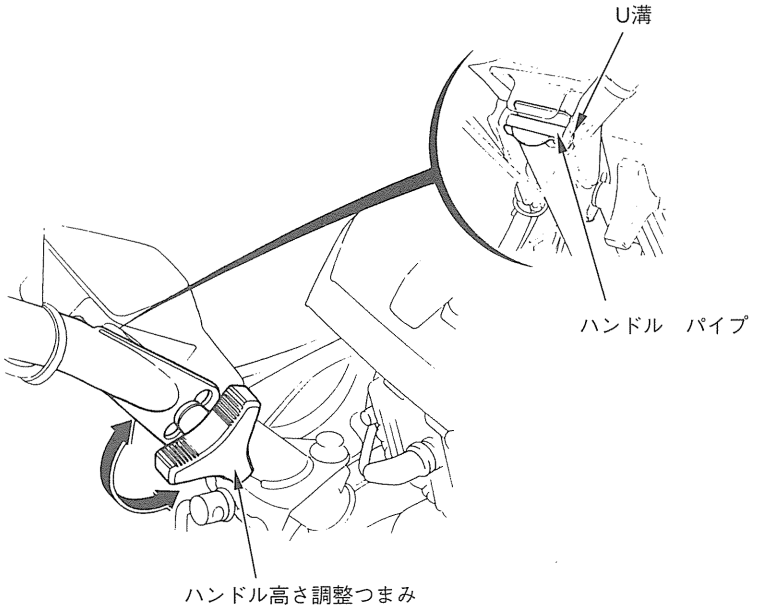
ハンドルの角度を調整するときに操作します。





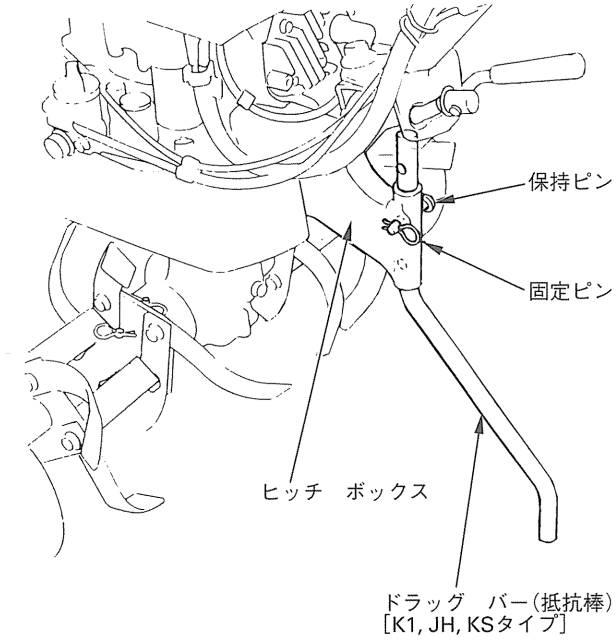
ハンドル高さ調整つまみ

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるつまみです。
ハンドルの高さは３段階に調整できます。



ヒッチ　ボックス(作業機取付け部)、ドラッグ　バー(抵抗棒)

作業機、ドラッグ　バーなどを取付けるところです。
取付けは、使用したい高さで保持ピンを差し込み、固定ピンで固定します。
ドラッグ　バーは上、中、下の３段に調整できます。



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……燃料の量(23、24頁参照)、オイルの量(25頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……レバーの遊び量(50、51頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……ハンドル固定レバー、ハンドル高さ調整つまみにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……被覆の破れ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は30～38頁参照)
  エンジン　スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は42、43頁参照)
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

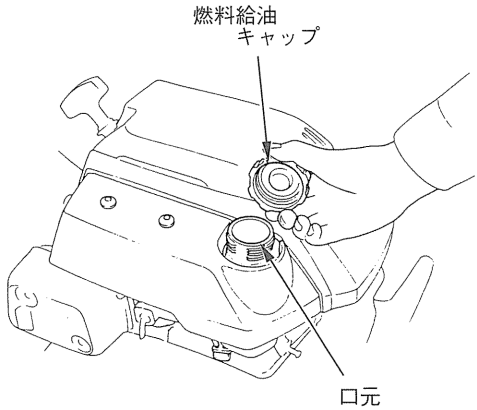
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

燃料給油キャップを外し、注入口の口元より少なめにガソリンがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

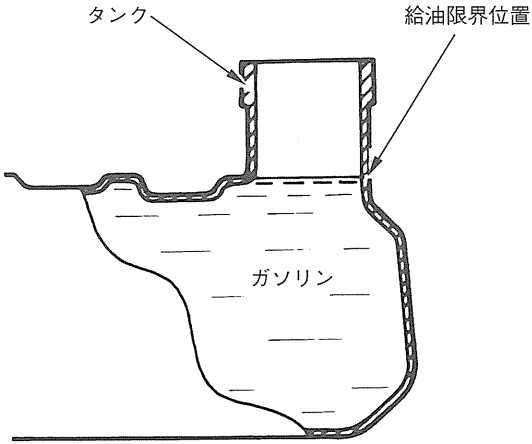


補給

使用燃料：自動車用ガソリン

タンク容量：0.9ℓ

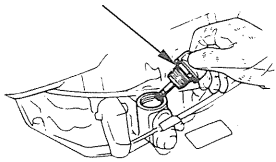
- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

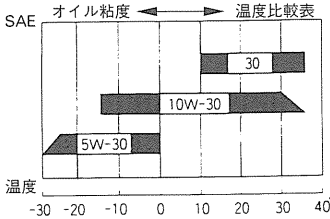


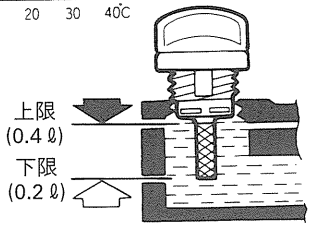
エンジン　オイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近いときには、上限までオイルを補給してください。







補給

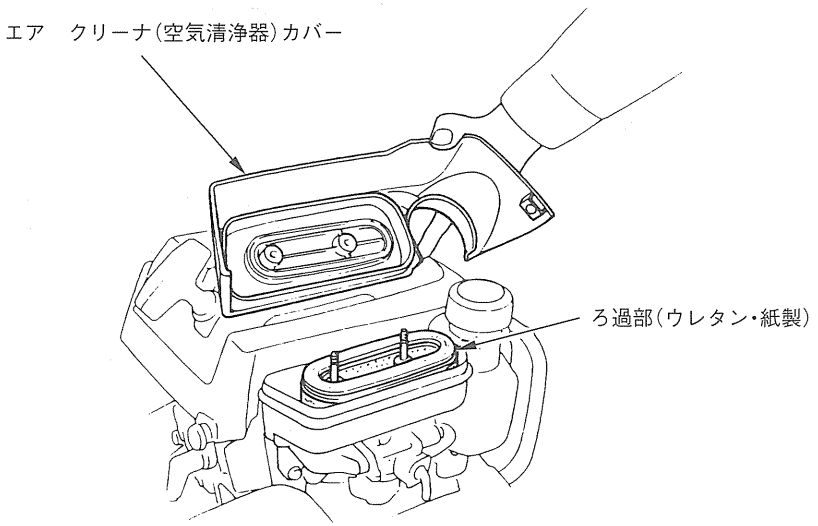
- 少ないときには新しいオイルを上限まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は45～47頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
  ホンダ純正①ウルトラ　ネオ汎用機用(SAE30)
  ②ウルトラU汎用(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。
  エンジン　オイル量：0.2－0.4ℓ

取扱いのポイント

- 低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時(気温－15°C以下)では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

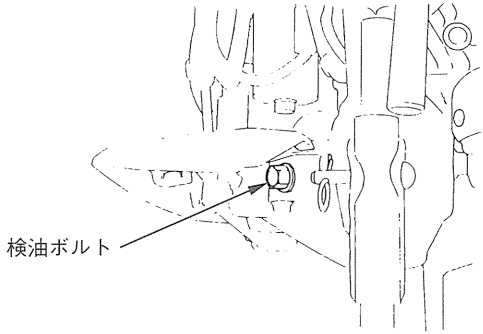
エア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は48頁参照)



変速機オイルの点検

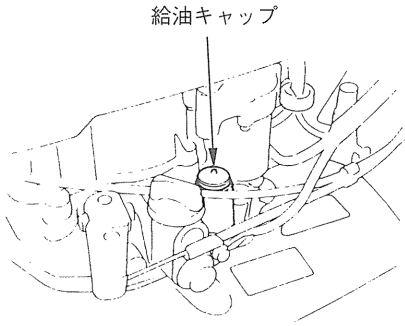
点検

検油ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるか点検します。
少ない場合は補給してください。



補給

給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトからにじみ出てくるまで補給します。
使用オイル：ホンダ純正　汎用寒冷地オイルSE 5W-30またはAPI分類SE級相当のSAE 5W-30オイル。
変速機オイル量：0.95ℓ
補給後、キャップは確実に締付けてください。



ハンドルの角度調整：(左右方向)(KA1, JHAタイプ)

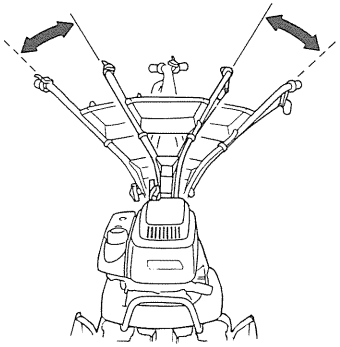
作業内容によりハンドルの角度はハンドル固定レバーをゆるめ、図のように調整することができます。

⚠注意

- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。



ハンドル固定レバー



取扱いのポイント

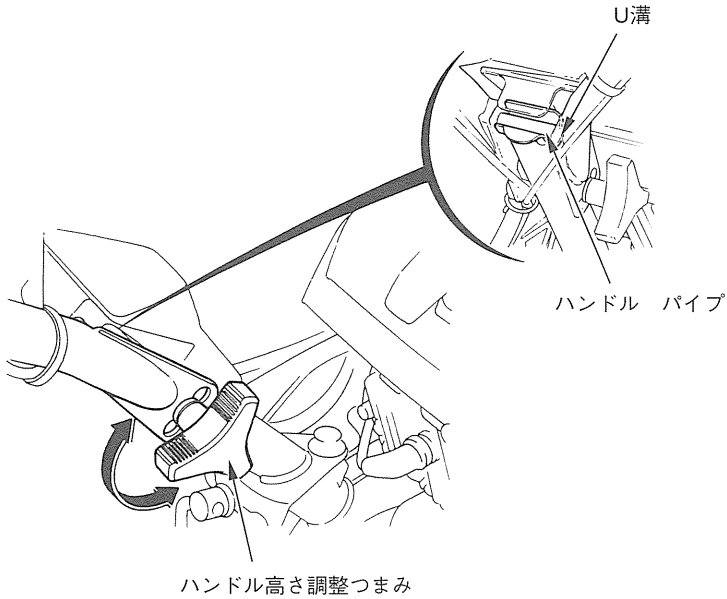
ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

ハンドル高さの調整(上下方向)

ハンドル高さ調整つまみをゆるめ、任意の穴へさしかえてハンドルの高さを調整します。
ハンドルの高さは3段階に調整できます。

⚠注意

- ハンドル高さ調整つまみは確実に締付けてください。
- ハンドル取付け部(U溝)にハンドルのパイプ部が確実に入っていることを確認してください。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。



取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

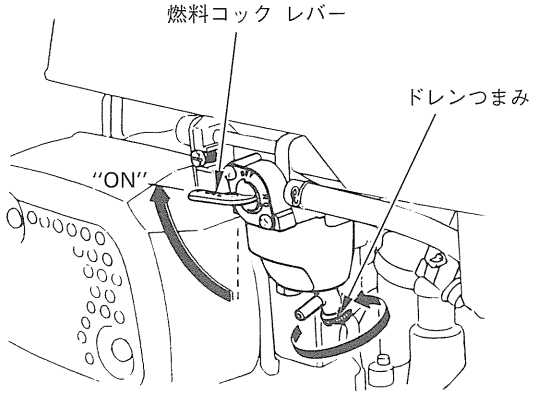
エンジンのかけかた

⚠警告

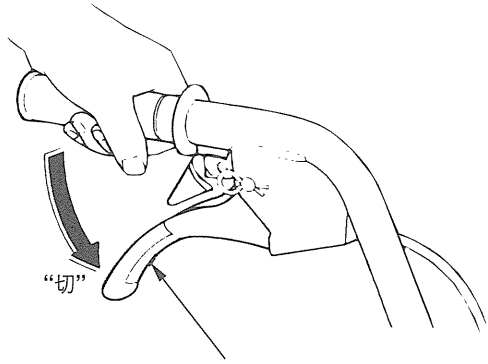
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 回りで作業をしている人がいたら回りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- クラッチ　レバーが"切"になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチが入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

リコイル　スタータによるかけかた

1. 燃料コック　レバーを"ON"(出)にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。

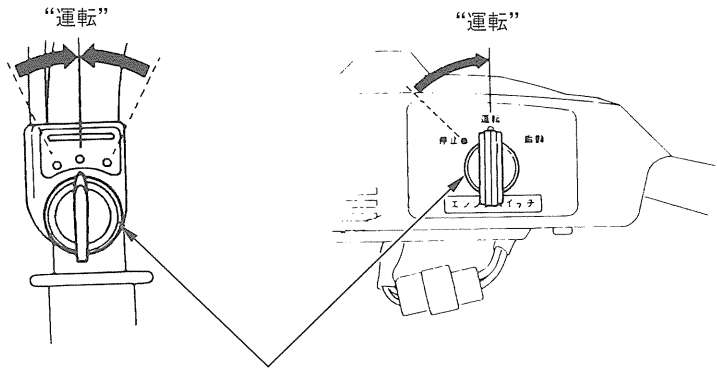


2. クラッチ　レバーが“切”になっていることを確認してください。

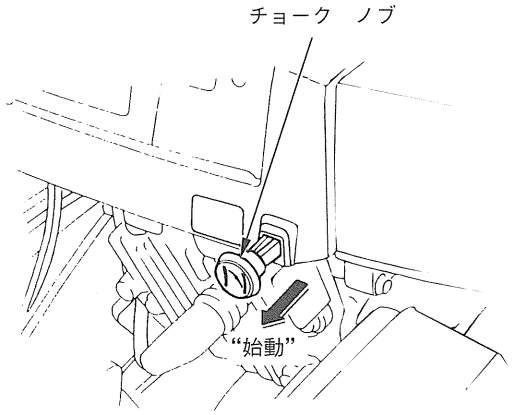


3. エンジン　スイッチを“運転”の位置にします。

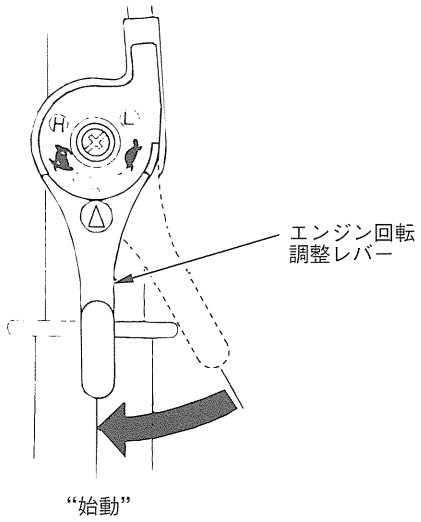
［K1, KA1, JH, JHAタイプ］　　［KSタイプ］



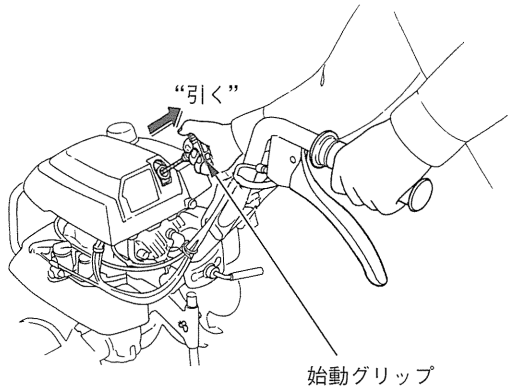
4. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョーク　ノブを“始動”の位置にします。



5. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。



6. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



⚠注意

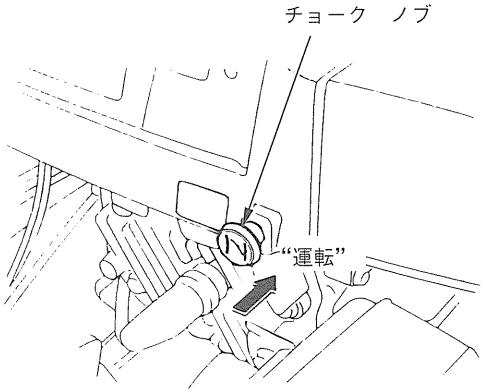
始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

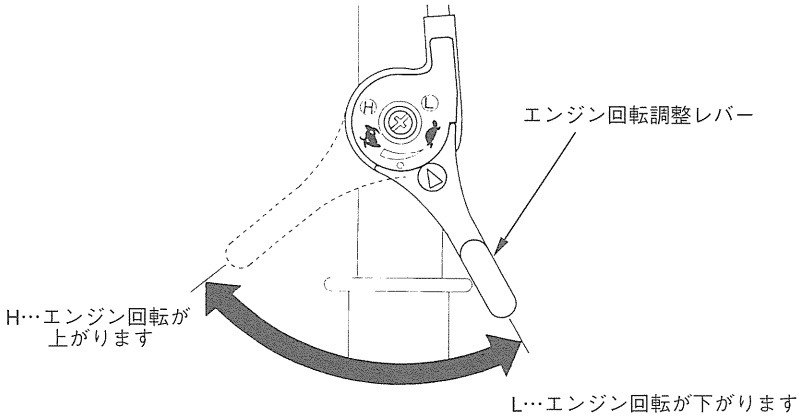
- 始動グリップを引いたあと手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

7. エンジンが始動します。

8. 2～3分間暖機運転を行います。
チョーク　ノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら“運転”の位置に戻します。

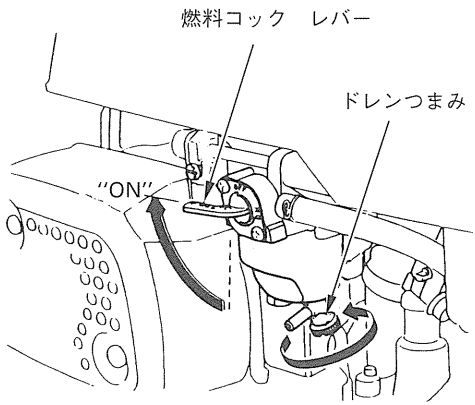


9. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。

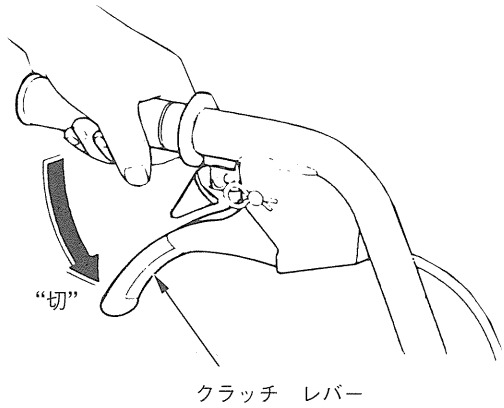


セルフ　スタータによるかけかた(KSタイプ)

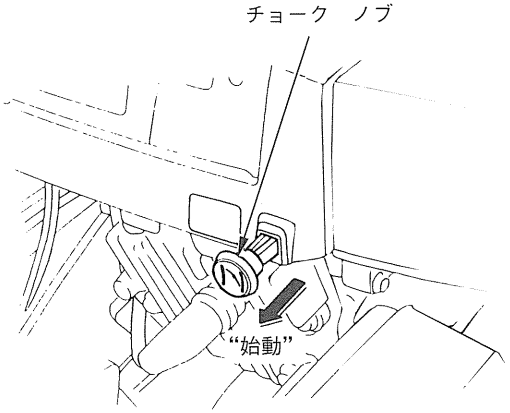
1. 燃料コック　レバーを"ON"(出)の位置にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



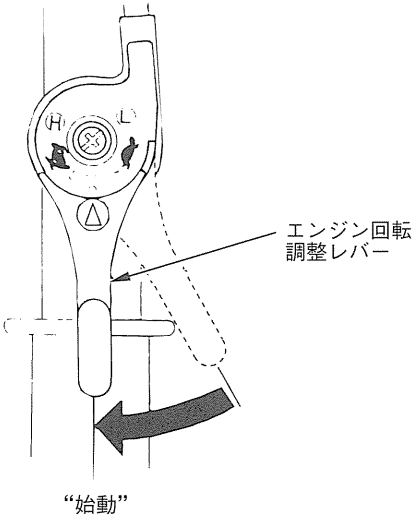
2. クラッチ　レバーが"切"になっていることを確認してください。



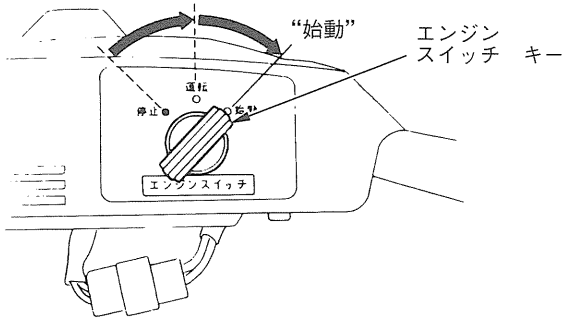
3. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョーク　ノブを“始動”の位置にします。



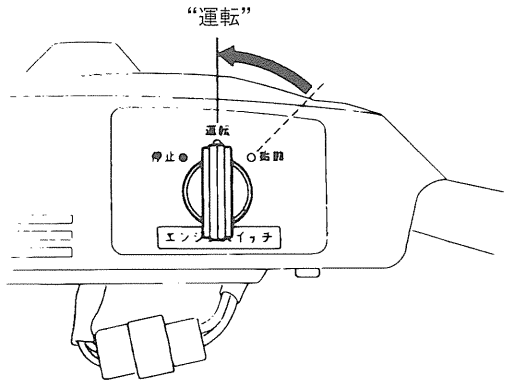
4. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。



5. エンジン　スイッチ　キーを差し込み“始動”の位置まで回します。



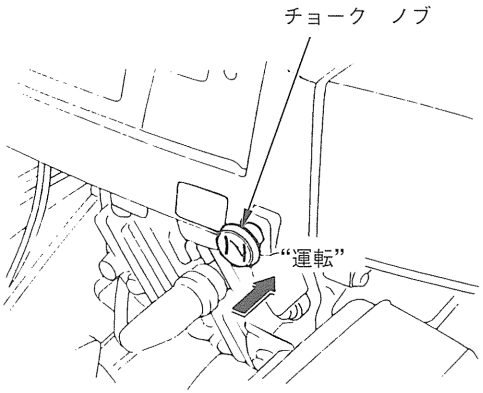
6. エンジンが始動したら、キーを“運転”の位置に戻します。



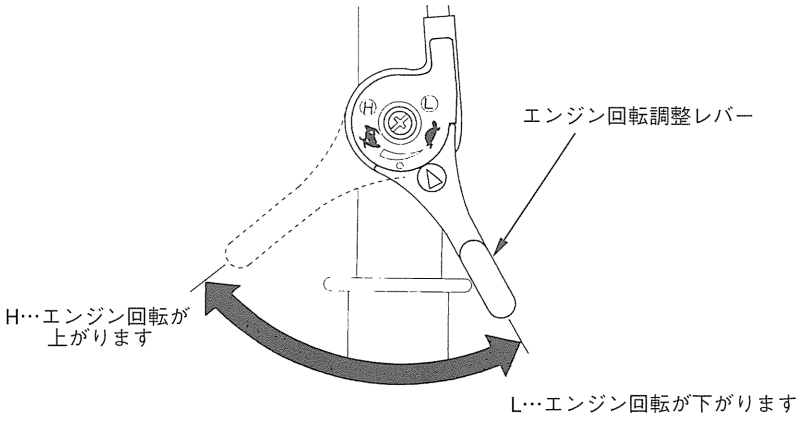
取扱いのポイント

エンジンが始動した後、キーを“始動”の位置にしたままにすると、始動装置を損傷させる原因となります。

7. 2～3分間暖機運転を行います。
チョーク　ノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら“運転”の位置に戻します。



8. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

運転

- 主クラッチ　レバー

主クラッチ　レバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

主クラッチ　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

⚠注意

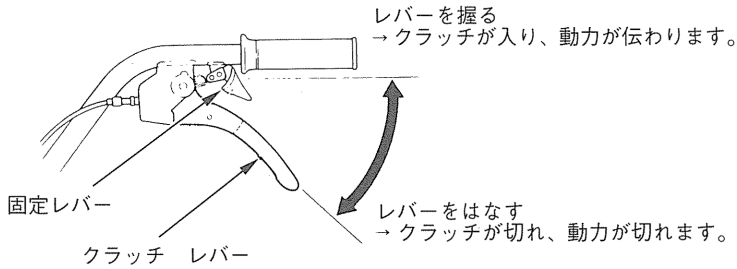
本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

走行

主クラッチ　レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。

停止

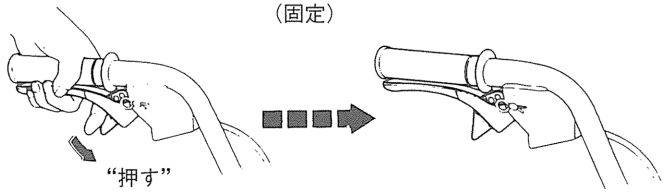
主クラッチ　レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



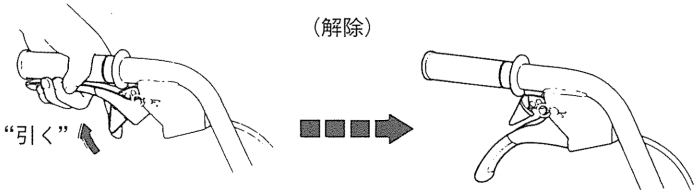
クラッチ固定レバー

固定レバーを操作することにより、クラッチ　レバーは握ったままの状態が保持できます。固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、また広い耕地及び身辺に障害物のない場所で使用してください。

●主クラッチ　レバーの固定のしかた
主クラッチ　レバーを握ってクラッチ固定レバーを人差し指で押すと主クラッチ　レバーは固定されます。



●主クラッチ　レバーの固定解除のしかた
解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、主クラッチレバーを放します。

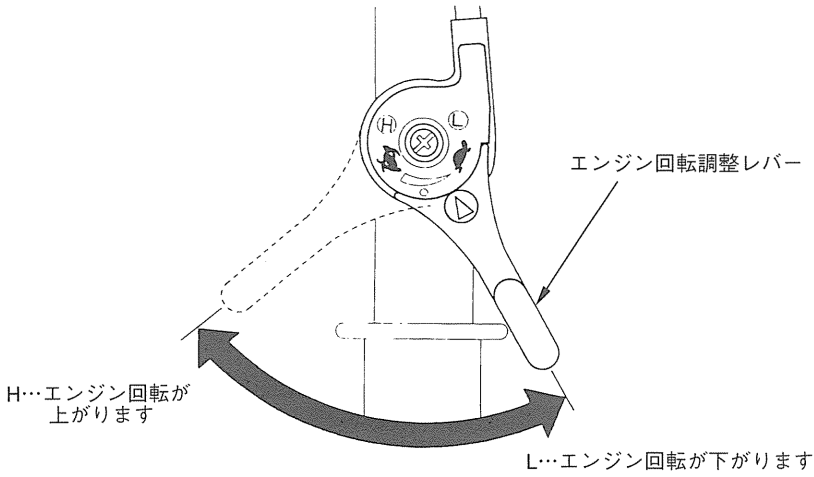


⚠注意

- 固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
  ハウスや障害物に衝突し思わぬ事故の原因となります。
- 固定レバーを使用し作業を行うときは、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

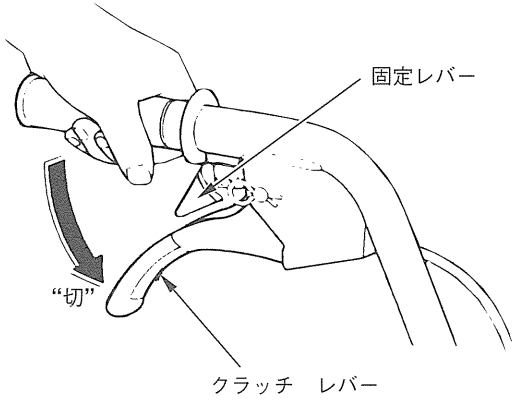
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。

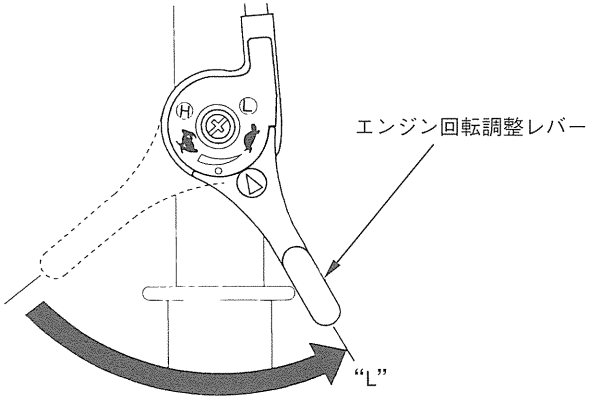


エンジンのとめかた

1. 主クラッチ　レバーを“切”にします。
   主クラッチ　レバーが固定されている場合はクラッチ固定レバーを引いてから主クラッチ　レバーをはなして“切”にします。

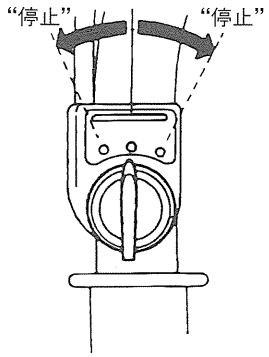


2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。

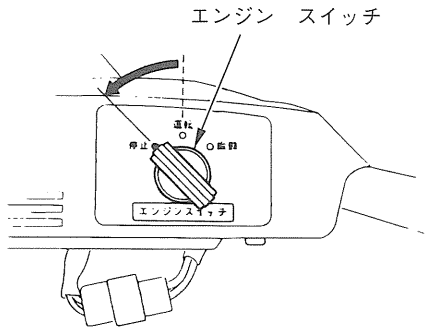


3. エンジン　スイッチを“停止”に合わせます。

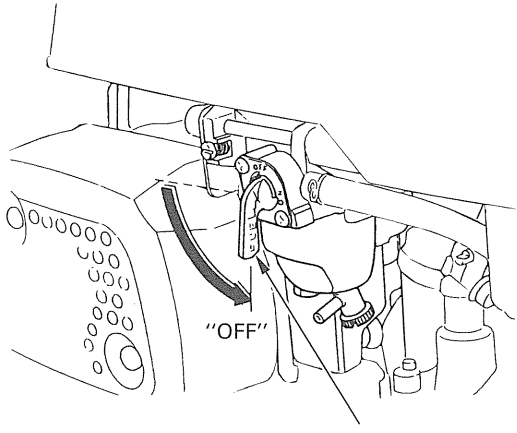
［K1, KA1, JH, JHAタイプ］



［KSタイプ］



4. 燃料コック　レバーを“OFF”(止)に合わせます。



定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目＼点検時間		仕業点検	初回20時間運転時	50時間運転毎	100時間運転時	300時間運転毎又は1年に1回
エンジン　オイル〈注1〉	点検	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○〈注2〉		
本機周りの点検		○				
レバーの作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類の点検		○				
エンジンの作動	点検	○				
変速機オイル〈注1〉	点検	○				
燃料フィルタ〈注3〉	点検	○				
	清掃				○	
クラッチ　シュー	交換					○〈注4〉
燃焼室	清掃					○〈注4〉
点火プラグ	清掃調整				○	
エンジン回転調整ケーブル	調整					○
クラッチ　ケーブル	調整		○		○	
吸入、排気弁間隔	点検調整					○〈注4〉
燃料タンク	清掃					○〈注4〉
燃料チューブ	点検	2年毎〈注4〉				

〈注1〉エンジン　オイル…稼動期前にも必ず交換してください。
　　変速機オイル……稼動期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合はお買いあげ販売店で交換してください。
〈注2〉ほこりの多い作業のときは10時間運転毎または1日1回清掃してください。
〈注3〉水、ゴミ等が燃料フィルタにつまったときは、そのつど清掃してください。
〈注4〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

⚠警告
点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：20時間運転時、以後：100時間運転毎。また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》　（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
ホンダ純正①ウルトラ　ネオ汎用機用（SAE30）
②ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

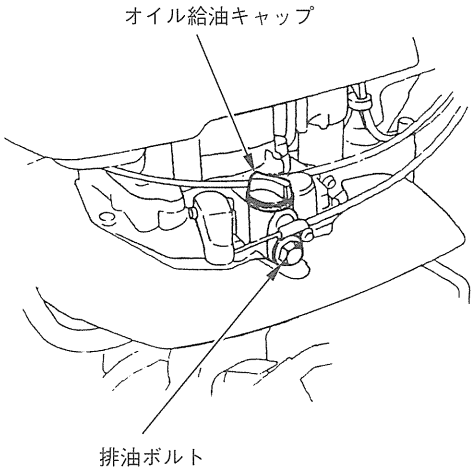
《エンジンオイル量》　0.4ℓ

取扱いのポイント

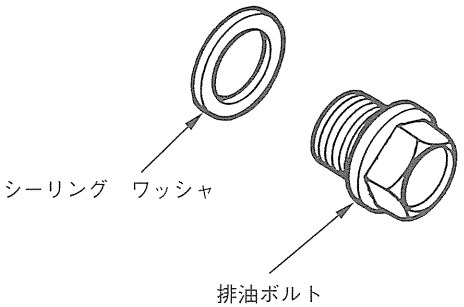
- 低温時（気温10°C以下）では、ホンダ純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時（気温－15°C以下）では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。

交換のしかた

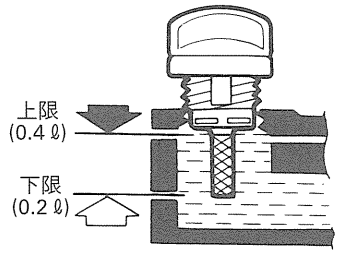
1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。



2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリング　ワッシャを使用し、確実に締付けます。



3. エンジン　オイルを給油キャップのレベル　ゲージで確認しながら上限まで注入します。（給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。）
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

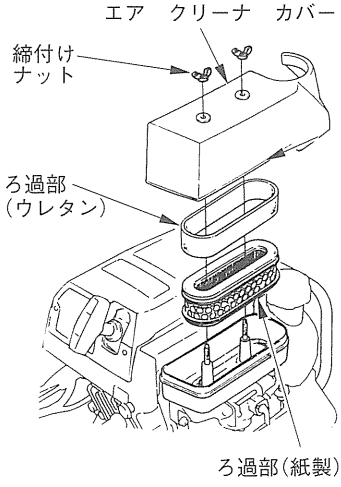
エア　クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間運転毎。

1. 締付けナットを外し、図のようにエア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部を取外します。
2. ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの清掃・調整

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

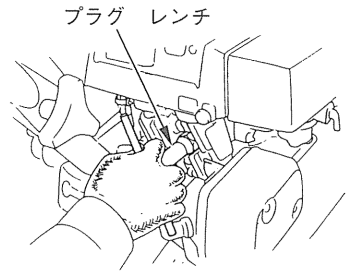
エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています、やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃時期》

100時間運転毎

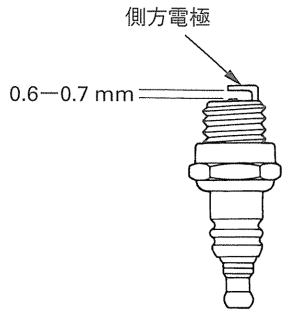
清掃のしかた

1. 点火プラグキャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.6－0.7 mm



《標準プラグ》

BM4A (NGK)　　W14M-U (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。
- プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

エンジン回転調整ケーブルの調整

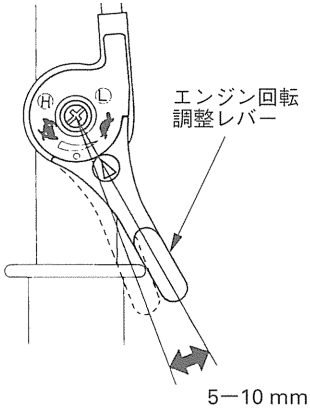
エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

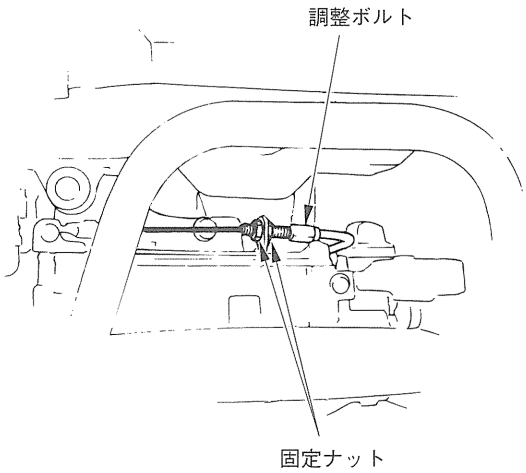
《調整時期》

300時間運転毎または１年１回

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“Ｌ”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：5－10 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ、調整ボルトを回して行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





主クラッチ　ケーブルの調整

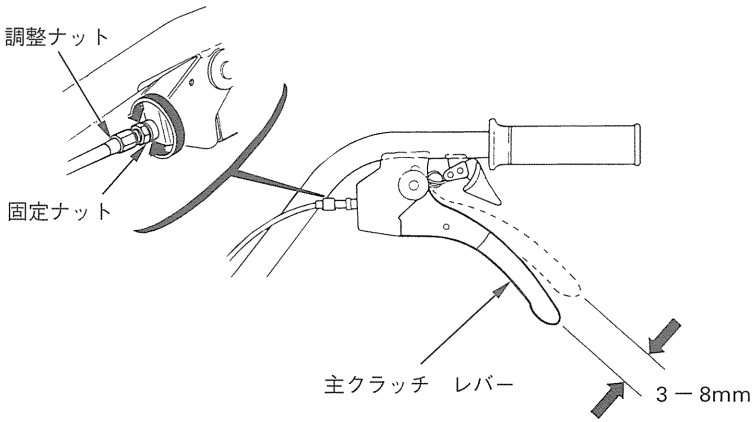
主クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったりクラッチがすべったりします。

《調整時期》

初回：20時間運転時、以後：100時間運転毎

調整のしかた

1. 主クラッチ　レバーを“切”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：3－8 mm
   調整は固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行います。



2. 調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチレバーを数回“入”“切”し、再度遊びを確認してください。

燃料フィルタの清掃

燃料フィルタ内に水がたまったり、フィルタが目詰まりをすると始動不良や出力不足をおこしますので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

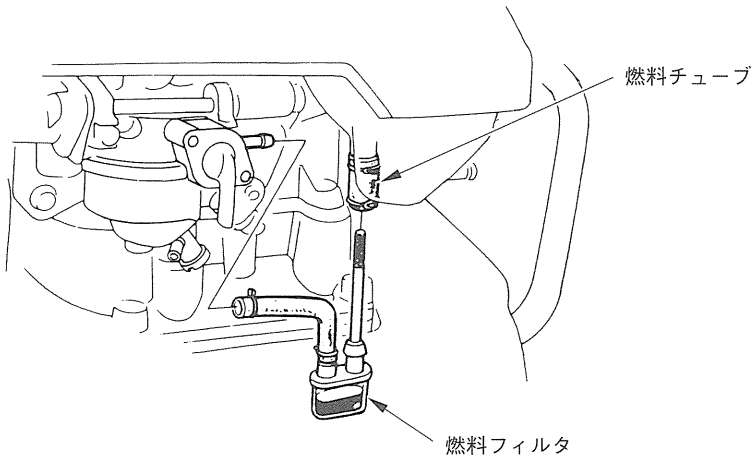
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 燃料フィルタの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが廻りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

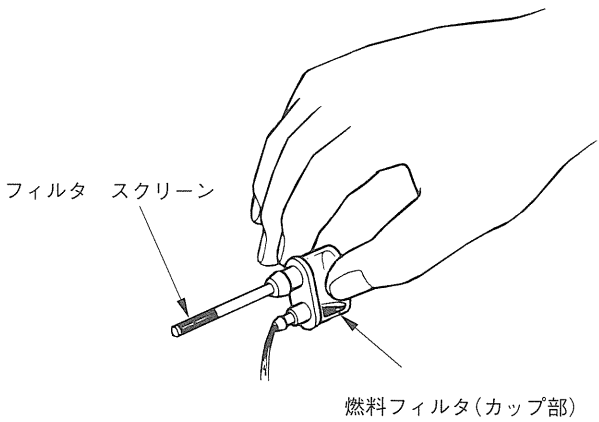
《清掃時期》

100時間運転毎

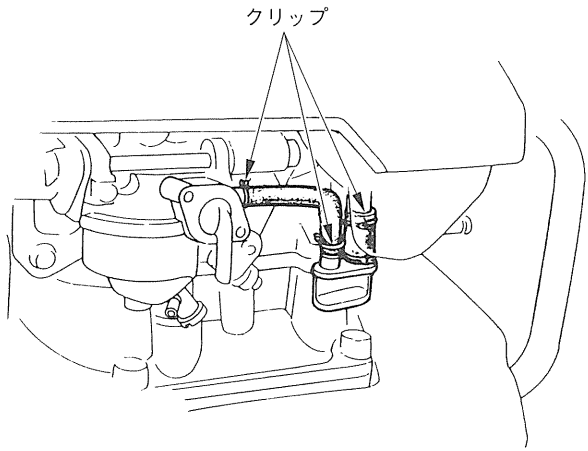
1. 燃料コックを"OFF"(止)の位置にして燃料チューブを燃料コックから外して、タンク内のガソリンを容器に受けてください。
2. ガソリンが完全に抜けたら、燃料フィルタを燃料チューブから外します。



3. 燃料フィルタ(カップ部)の水、ゴミなどを容器に受けて、フィルタスクリーン及び燃料フィルタを清掃してください。



4. 清掃が終わったら燃料フィルタを元の状態にもどして、燃料チューブをクリップで確実に取付けます。



バッテリの補充電（KSタイプ）

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行ってください。保管中、６カ月に一度、指定された充電器で補充電を行ってください。（エンジン回転を低速で使用すると十分にバッテリの充電が行えない場合があります。使用後に補充電を行ってください。）

補充電のしかた

● 指定充電器（別売り）

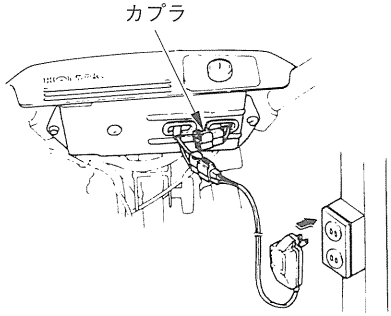
部品名：バッテリチャージアッシ

部番：31670－737－711

①カプラの接続を外します。

②充電器のリード線カプラをメス側カプラに接続します。

③充電時間：24時間



⚠警告

- バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
  バッテリを取扱うときは風通しのよいところでショートによる火花に注意してください。また火気を近づけないでください。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は浸されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- バッテリのカプラ端子を分解したり、針金等でショートさせないでください。ショートによる火花で引火、爆発のおそれがあります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

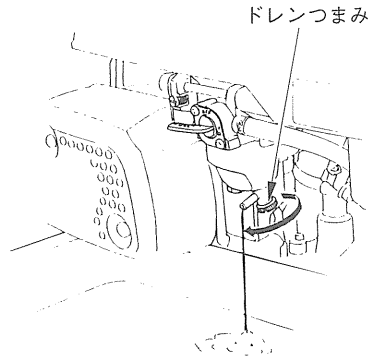
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。

1. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを下記の要領で抜きます。

抜きかた

1) 燃料コック　レバーを"ON"(出)にします。
2) キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コック　レバーを"OFF"(止)にします。



2. エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は48頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4. クラッチ　レバーを"切"にします。

取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管ください。
ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（30～38頁参照）
2. ガソリンはありますか?（26、27頁参照）
3. エンジン　オイルは注入口、上限まであります か?（28頁参照）
4. 点火プラグは汚れていませんか、点火プラグから火花は出ますか?（49頁参照）

点火プラグの火花確認手順

－1. 点火プラグから点火プラグ　キャップを外します。
－2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ　キャップに取付けます。
－3. 点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実に接触（アース）させます。感電を避けるため点火プラグキャップ以外には触れないでください。
－4. エンジン　スイッチを始動の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出ることを確認してください。

火花が出ないときは新しい点火プラグと交換するか、お買上げ販売店またはサービス店にご連絡ください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 燃料がこぼれた場合は点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り乾いてから行ってください。ガソリンに引火するおそれがあるのでプラグ穴の近くで火花確認をしないでください。またプラグ穴に手や顔を近づけないでください。

クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう

5. 主クラッチ　ケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか?（51頁参照）

少し時間をおいてもう一度確めましょう

主要諸元

名称		ホンダF210 こまめ		
型式		F210		
区分		K1, JH	KA1, JHA	KS
機体寸法	全長	1,070 mm		
	全幅	585 mm	〈 585 mm 〉	585 mm
	全高	960 mm	〈 960 mm 〉	960 mm
全装備重量		28.5 kg	22.5 kg(ロータなし)	31.0 kg
エンジン	名称	ホンダGV100K 1		
	形式	空冷4サイクル1気筒横形ガソリン		
	総排気量	90 cm^3		
	定格出力／回転速度 (ps/rpm)	1.4/3,600 (最大2.4/4,200)		
	使用燃料	自動車用ガソリン		
	燃料タンク容量	0.9 ℓ		
	エンジン オイル容量	0.4 ℓ		
	点火方式	トランジスタ マグネト点火		
	始動方式	リコイル スタータ	セル スタータ リコイル スタータ併用	
主クラッチ方式		シュークラッチ		
変速段数		前進1段		
安全鑑定適合番号		802047		

〈 〉は、標準ロータを取付けたときの寸法です。
諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付け方

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け関係は同じですので御了承ください。

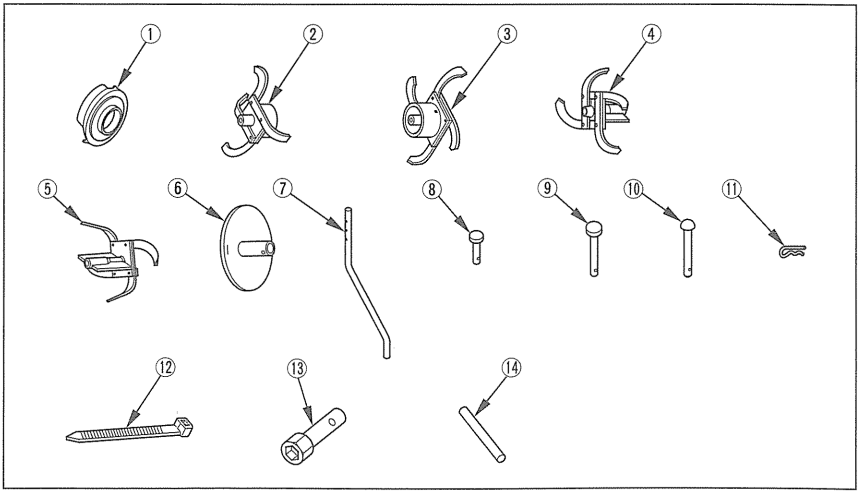
⚠注意

取付け作業は２人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。作業をする間、１人は本機が倒れないようにささえてください。

同梱部品リスト

No.	部　品　名	個数	No.	部　品　名	個数
①	グラス ガード	〈2〉	⑧	保持ピン(8×35)	〈4〉
②	メイン　パイプComp.(左)	〈1〉	⑨	保持ピン(8×75)	〈2〉
③	メイン　パイプComp.(右)	〈1〉	⑩	保持ピン(7×48)	〈1〉
④	エクステンション　パイプComp.(左)	〈1〉	⑪	固定ピン	〈7〉
⑤	エクステンション　パイプComp.(右)	〈1〉	⑫	ワイヤ バンド	2(3)
⑥	側板	〈2〉	⑬	プラグ レンチ	1
⑦	ドラッグ　バー	〈1〉	⑭	プラグ レンチ ハンドル	1

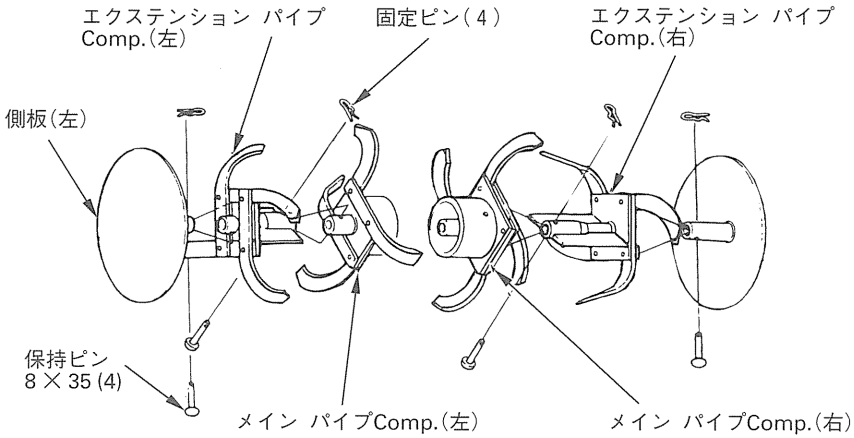
個数〈　〉:ロータ有タイプのみ、KA1, JHAは除く
（　）:セルフ　スタータ付タイプKSのみ



グラス　ガード、タイン（KA1, JHAタイプを除く）

メイン　パイプComp.、エクステンション パイプComp.、側板を、保持ピン8×35、固定ピンで図のように組立てます。

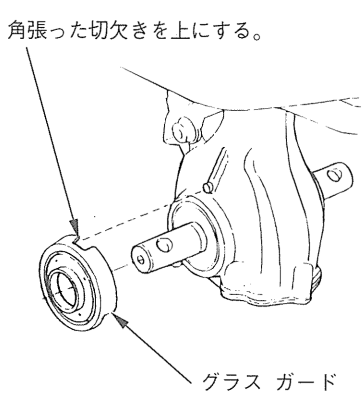
・“L”の刻印のあるものは左側、“R”の刻印のあるものは右側に組付けます。

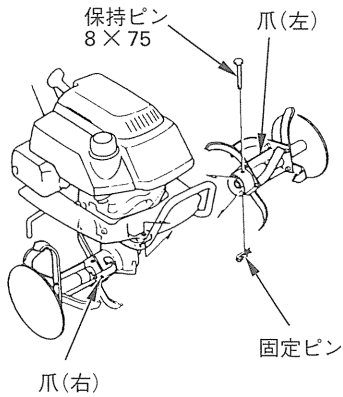


グラス　ガードを取付け、左右の爪(タイン)を保持ピンと固定ピンで本機に取付けます。

・グラス　ガードの角張った「切欠き」を上にして取付けます。

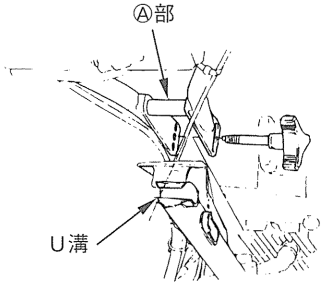
・本機が倒れないように支えながら、爪(タイン)小組を取付けます。

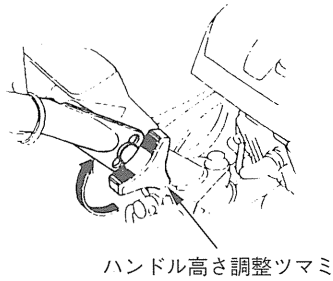




ハンドル

図のようにU溝にハンドルのⒶ部を合わせて取付け、ハンドル高さ調整ツマミで確実に締付けます。





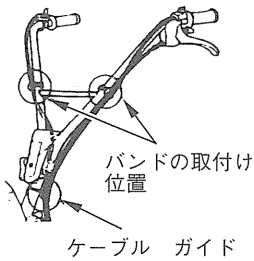
ドラッグ　バー(抵抗棒)

ヒッチ　ボックスにドラッグ　バーを入れて、保持ピンと固定ピンで取付けます(21頁参照)。

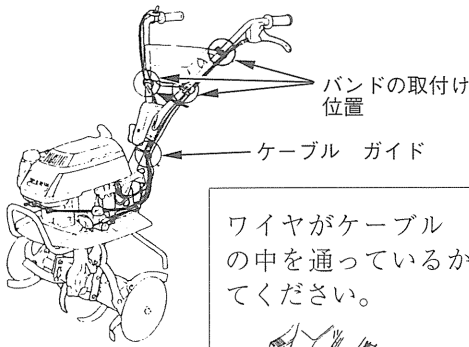
ワイヤリング

バンドとケーブル　ガイドを使ってケーブルを図のようにとめます。

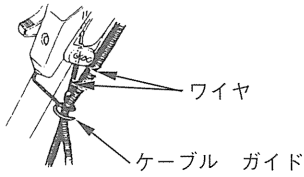
[K1, KA1, JH, JHAタイプ]



[KSタイプ]



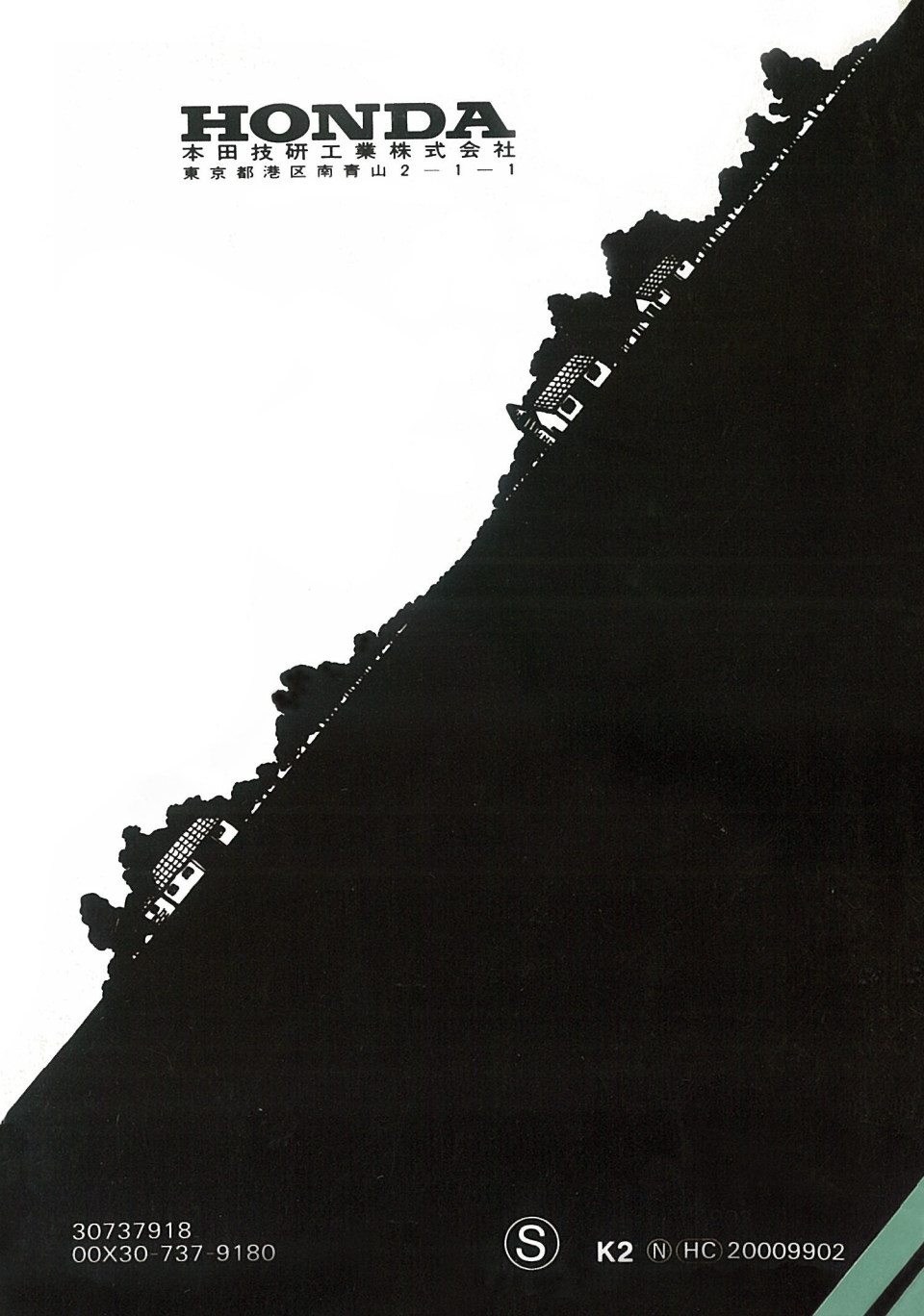
ワイヤがケーブル　ガイドの中を通っているか確認してください。



この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１



30737918
00X30-737-9180

Ⓢ K2 Ⓝ Ⓗ Ⓒ 20009902